

平成29年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

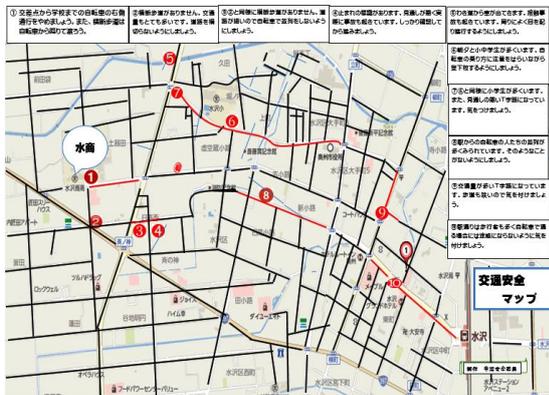
学校名：岩手県立水沢商業高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

- (1) 交通安全マップを利用し登下校の安全を確保
- (2) 避難訓練2回（火災、地震を想定・防災講演会）
- (3) 普通救命講習
- (4) 東日本大震災津波被災地ボランティア活動
- (5) 震災学習

II 取組の概要

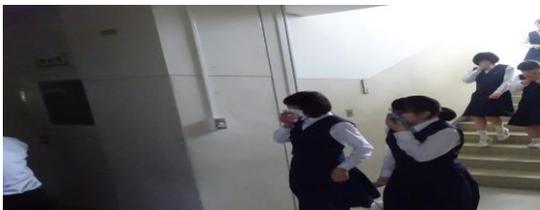
- (1) 交通安全マップと通学路を照らし合わせて危険箇所を認識し、どのような危険があるかを考え、危険を予測し回避するための行動を話し合いました。



- (2) 避難訓練

ア 6月14日（火災想定）

生徒に事前に知らせないで、業間に出火した想定で実施した。放送を聞いて出火場所を把握し、避難経路を判断して避難した。その後、水消火器による消火訓練を行いました。



イ 9月27日（地震想定・防災講演会）

震度6弱の地震を想定した避難訓練後、岩手県防災サポーター 防災士 千葉 稔 様から「命をつなぐ」と題して講演をいただいた。台湾地震や阪神淡路大震災、東日本大震災などの救助経験談から72時間の生存率、クラッシュシンドローム、建物の下敷きになった場合の助けの求め方や土砂災害、火災避難時の心得についてお話いただき、煙の中にも空気があること。空気をもって避難すること。階段を後ろ向きで降りることなど新しい知識を得ることができた。みんなで助け合うことが大事なことであり、「助けられる人から助ける人になれ」というお話が生徒の心に響きました。



- (3) 普通救命講習

7月27日から3日間、1年生が心肺蘇生法、AEDの使用方法を学びました。



- (4) 被災地ボランティア活動

9月21日に1学年の震災復興支援協力活動が行われました。東日本大震災津波の被災地陸前高田市へ出向き今年度は、仮設住宅周りの草取り作業を行いました。仮設住宅の半数が空き家となっており復興が進んでいることが分かりました。



(5) 震災学習

ボランティア活動後 気仙大工左官伝承館での震災学習では、講師の先生のお話を聞き、改めて津波の恐ろしさに驚かされ、自分たちが同じ立場になったときにどうすればよいか学ぶことができました。復興は進んできたけれども、まだまだ一人ひとりが辛い思いをされていて、生活に苦しんでいる人が多いことも分かりました。



Ⅲ 取組の成果と課題

(1) 成果

各活動を通して、自他の生命の大切さを実感し、自ら安全に主体的に行動する態度が身についた。予告なしでの避難訓練は、出火場所から避難経路を考え避難する判断力・行動力の育成につながった。

震災学習や防災講演会を通して、いつ起こるか分からない災害に対して、命をつなぐために何故防災が必要なのかを学び、共に助け合うことで自分の命を守り、助けられる人から助ける人になりたいという意識が向上した。

(2) 課題

避難訓練の時期は毎年同じであり、年2回の実施であるが、条件を変えながらマンネリ化しない訓練が必要である。防災講演会で新たに学んだ後ろ向きで階段を降りる避難方法など、新しいことを取り入れ災害に対処できる知識、実践力を身につけていく

必要がある。そのためにも教職員の積極的な研修への参加が課題である。

内陸に居住している生徒は、津波に対する避難を経験したことが無いため、被災地でのボランティア活動の際に訓練を取り入れるなどの工夫も必要と考える。

Ⅳ 生徒の感想

- ・東日本大震災被災地ボランティア活動・震災学習
今回の活動はバスでの移動だったため、高い車窓から被災地の現状をしっかりと見ることができました。震災後につくられた防波堤の高さは、震災前よりも7メートルも高くなり、震災の津波の大きさを読み取ることができました。また、いまだに仮設住宅暮らしを強いられている人々がいると聞き、6年経った今でもこのような状況であることに驚きました。

実際のボランティア活動は、みんなと力を合わせることで草を山ほど取ることができ、少しは被災者の方の力になれたと思いました。語り部さんの話からはテレビ越しでは分からない、被災者の思いなどがとても強く伝わってきました。二度とこのような被害を出さないようにするためにも後世に伝えていくことが大切だと実感しました。

今回、震災復興支援としてボランティアを行って見て、まだまだ復興途中である被災地を元気づけられるのは私たちであり、笑顔で「ありがとう」と言ってもらえたときの嬉しさややりがいはボランティアをした人にしか分からないと思いました。今後も積極的にボランティア活動に参加し、被災地の手助けをしていきたいです。

- ・防災講演会

自分が被害にあい、命の危険が判った場合は「生きる」という強い気持ちを持ち続けることが大切だと知りました。また、大声で助けを呼んだり、ビン・カンで音を鳴らしたりすることで相手に気づかせることも必要だと知りました。これらの知識を忘れず、自分の命は自分で守れるよう、常に防災を頭の中に入れておきたいと思います。

改めて避難の大切さや心構えを知ることができました。自然災害の前兆を知り、これからの生活でいつ何が起こるか分からないのでとても参考になりました。自分で自分の命を守るのが一番大切だということを知り、自分の命を守り、そして、他の人を救えるような行動力を身につけていきたいと思いました。